

社団法人

岩手県産業貿易 振興協会のあゆみ

県産品の普及向上をめざして

社団法人 岩手県産業貿易 振興協会のあゆみ

■目次

物産展と岩手県産業貿易振興協会	2
社団法人岩手県産業貿易振興協会 副会長 鈴木 宏 延	
岩手県産業貿易振興協会を振り返って	4
元副会長理事 藤 原 誠 市	
物産展はかたちを変えた見本市	6
社団法人岩手県産業貿易振興協会 事務局次長 伊 藤 俊 治	
写真で振り返る産貿のあゆみ	9
物産展のあゆみ	14
産業まつりのあゆみ	26
見本市等のあゆみ	28
海外展等のあゆみ	30
平成 23 年度役員名簿	32



伝統と誠意が光る県産品

物産展と岩手県産業貿易振興協会

社団法人岩手県産業貿易振興協会

副会長 鈴木宏延



県産品の普及向上を目的として結成された（社）岩手県産業貿易振興協会は、デパートでの物産展や、躍進いわての産業まつりといった各市町村での物産展の開催、生産者の技術向上のための研修、市場調査、県外視察、特産品の開発・販売の体系化、県産品普及向上運動の展開などに努めて参りました。

この度（社）岩手県産業貿易振興協会は組織変更し（財）いわて産業振興センターと合併する事になりました。新しい公益法人制度への対応、県の補助育成制度の見直しなどを、新しい時代に向けた改革としてとらえ、これを契機に、県産品の普及向上事業を二層充実したものにいたします。

数年前、日本橋高島屋「第二回 岩手県の物産と観光展」の企画に参加された元社員の方とお会いし、お話を伺うことができました。

当時の岩手県知事が高島屋を訪問され、いわて牛という美味しい牛肉があるので、販売してくれないかという話をいただきました。幹部から岩手の物産を見て来いと指示を受けて来県され、物産の情報収集や話し合いを重ねて、昭和46年の第1回物産展になったと聞かされました。

ほとんど原材料そのものだった岩手の物産を、デパートの売り場にどんな形で取り入れるか、というところから指導したと話していました。

それから長い年月、高島屋の歴代担当者が来県され、当協会の職員とともに県内各地を回り、商品の発掘や商品化の指導をいただいています。物産展の開催に向けた陰の努力が、新しい商品の誕生に繋がっています。

また当協会は「躍進いわての産業まつり」を県内各地で開催し、商品、事業者の発掘を行いました。こういった事業者の、デパートへの新規出店をサポートし、お客様との試食・対話を通して学習することで、商品の改善、発展に結び付けてきました。これもまた、大きな成果を得たものと思います。

日々進歩、発展されました皆様方に、衷心より感謝申し上げます。今後、デパートの物産展や、特産品の開発・販売支援など、これまでの事業を新しい組織の中で継続して参ります。

岩手は食料の基地と言われ、畜産物、農産物、魚介類など豊かな資源に恵まれています。しかも安心・安全・美味の食材の産地です。時代とともに量から質へ変わってきた食材の変化に対応

し、多くの人々に喜んでもらえる商品を生み出す事は、まだまだ努力のいるところです。そしてここは、加工業者の努力のしどころです。

これまでの技術を生かした新しい商品の開発、環境問題、お客様の健康志向など、商品をより良いものとするために、解決しなければならぬ問題点がたくさんあります。これらの解決の為に、（財）いわて産業振興センターの一員として、この組織の持つ高度な能力を活用し、岩手の商品がより良く発展するために力を注ぎます。

南部鉄器、漆工芸品、建具・家具、繊維製品などの生活関連商品にも、岩手独自で、芸術品のような商品が多くあります。重厚な岩手の商品は、素朴さ、力強さ、繊細さ、多方面から高く評価され、長年の信頼関係により、毎年購入していただく固定客をつかんでいます。

特に伝統工芸品については、海外からの需要があり市場開拓が期待されます。また平泉の世界文化遺産登録に伴い、土産物市場の展開もやりがいのある仕事となるでしょう。今後は、技術開発と同時に、伝統技術の継承も大切な分野と考えております。

デパートの物産展では、物販だけではなく、岩手の観光や文化を理解してもらうため、観光案内の設置、わんこそば等の食事処の出店なども行ってきました。お客様の要望に添うことを念頭に置いており、いつも好評を得ています。対話しながら商品を販売することは、お客様から多くのヒントが得られることです。また同時に岩手の文化を伝える事もできます。

物産展に来場するお客様は時代とともに変化します。それに対応した商品の移り変わりも大きくなっています。

時代が移って新たな市場開発の課題は生まれます。しかし頑固な商品も喜ばれます。

合併後もいわての物産展等実行委員会として皆さんと一緒に市場に学びながら、岩手の商品の更なる普及向上に努める事を再確認して参りますので、今後ともご協力をお願い致します。

3月11日の東日本大震災津波では、県内事業者の多くが被害を受けましたが、現在は復興に向けて全力で取り組んでおられます。いわて産業振興センターとして、事業者の方とのつながり、絆を大切にしながら共に頑張つて参ります。

岩手県産業貿易振興協会を振り返って

元副会長理事 藤原 誠 市



私は昭和23年春、盛岡高等農林（現在の岩手大学農学部）を卒業し、生物（蝶類、鳥類など）の研究をする目的で翌年北大理学部を受験する予定でしたが、その後養蜂業を営んでいた父親がマッカーサー命令により農地解放を命じられ、所有していた多くの田畑を失いました。そのショックから父親は事業への意欲を失い、その様子を見かねた母親から「長男であるお前はすぐ養蜂業を継ぎなさい。受験勉強をしている場合ではありません」との叱責を受けました。そこで私は、養蜂業を人生の新たな出発点と定め、養蜂の研究を始めました。

雪深い盛岡の地よりも、冬でも花の咲く千葉県房総半島の最南端・白浜が養蜂に適していると考え、そこにも巣箱を置くこととしました。それからの数年間、白浜、埼玉、福島など温暖な地を回り、菜種、レンゲ草などの蜂蜜を採取するかたわら、本拠地である岩手の早池峰山麓の門馬では栃の花の蜜を採取して東京方面に出荷するなどして、事業は順調に発展していきました。

しかし、その後、わが国の甘味業界には大きな異変が押し寄せ、特にキューバ糖の大量輸入

会長である米内二郎氏の目に留まり、同協会の理事に推薦を受けたのがご縁の始まりでした。

その後、理事として協会の運営に携わりながら、会員である業者の皆さんの様々なご意見に耳を傾けていたところ、販売はすべて委託販売の形式を採っていたため、大きな在庫不足が発生していることが判明しました。不足額は七百万円にも上り、当時としては莫大な金額でありました。急遽役員会を招集し、問題解決のための話し合いをしたところ、ある出席者から、金融機関から融資を受け、それを原資として不足額の支払いをした後、協会を解散すべきであるとの意見が出されました。しかし、そのような処理の仕方では後に借金が残り、協会を解散しては今後の業界発展の上でも大きな支障が生ずるとの懸念がありました。その当時、会長は米内氏から小泉仁左衛門氏に代わっており、小泉会長から、私が会長職を引き継ぎこの難局を乗り切るようにとの要請を受けたのです。会長に就任した私の方針により、金融機関からの融資は受けない、協会は存続させる、そのためには会員業者一人一人に協会の苦境を訴え、協会存続に向けての協力要請を行うこととしまし

によって蜂蜜の価格は大暴落し、販売が不可能な状態に陥りました。せつかく採取した蜂蜜が売れず大変困窮しましたが、発想を転換し、売れないならば自分で使おうと決意し、幸い農学部時代に専攻した乳製品製造の知識があったことから、蜂蜜を利活用してアイスクリームを製造・販売することを思いつきました。このアイスクリームは大好評を博し、盛岡はもちろん、県内全域および仙台にまで販路を拡大することができました。しかし、それでもなお、採取した蜂蜜を消費しきれず、もう二手が必要と考え、それまでは二升瓶やサイダー瓶などに入れて販売していた蜂蜜を、新たにおしゃれな化粧瓶に詰め、盛岡市内の多くの食料品店に藤原の看板を掲げ、蜂蜜の卸販売を開始しました。

ちょうどその頃（昭和40年代）、盛岡の中心部である中ノ橋際の岩手県商工会館内に県産品の売り場が設けられており、その売り場を時折訪れると、恵まれたロケーションであるにもかかわらず、売れ行きは芳しくありませんでした。そこで私が仕事の合間に会館内で蜂蜜の試食販売を始めたところこれが大好評で、その様子が売り場を運営していた岩手県産業振興協会の

た。具体的には、在庫不足の七百万円の割だけ支払いをし、残りの九割は減免していただくということを提案したところ、案の定会員業者さんからは大いに不満が出ましたが、最終的には全会員の賛同を得て危機を乗り切ることができました。もちろん、支払いのために必要な原資については私が金融機関に対して保証をいたしました。

その後、協会が岩手県からさらなる協力を得るためには、県が運営している団体であり、当時の千田知事が会長であった岩手県貿易振興連絡協議会との合併が必要であるとの判断から、現在の岩手県産業貿易振興協会が誕生した次第であります。

爾来、協会の財務基盤も安定し、国内はもとより、ハワイ、シンガポール、香港などの海外においても岩手の物産展を開催し、県産品の販路拡大に大いに貢献して参りました。また、さらなる販路拡大を目的とした岩手県産会社の設立にも協力をし、当協会と岩手県産会社は車の両輪として県産品の知名度向上、販売促進、振興・発展に大いに力を尽くして現在に至っております。

物産展はかたちを変えた見本市

社団法人岩手県産業貿易振興協会

事務局次長 伊藤俊治



私が社団法人岩手県産業貿易振興協会の前身、岩手県物産展等実行委員会に入ったのは昭和50年4月でした。それから間もない昭和55年の4月に社団法人岩手県産業貿易振興協会に合併され、今に続いています。

物産展等実行委員会の事務所は、県庁2階商工労働部商政課 物産貿易係の中にありました。合併後は産業会館（産ビル）に長くいて、その後マリオス、最後に今の岩手県先端科学技術研究センター内のビルでの仕事になりました。昭和40年代の後半は県産品の販路拡大、開拓の事業を実施するため県の職員が実行委員会の職員を兼任していましたが、更に積極的に事業の拡大を進めるためプロパー職員を必要とし、私はその専従職員として採用されました。

大船渡市の高校を卒業し、直ぐ東京に出て、大学生活とサラリーマン生活合わせて9年間東京生活を送り、盛岡市にJターンしたかたちとなりました。温暖の地、大船渡市に高校までおり、東京に住んだ後、直ぐそのまま盛岡に来ましたので、盛岡の冬はことのほか厳しかったです。北夕顔瀬町にあった借家が古い建物で、降った雪が壁の隙間から入り、寝床にうつすらと雪が積

の17回目で終わりましたが、平成の初め頃、当時の在シンガポール大使館に達増二等書記官が赴任されておりました。

産ビルに事務所があった当時、達増二等書記官の父上が事務所に来られ、私がシンガポールに行くので聞いたので息子に新刊（20冊ぐらい）を持って行って欲しいと頼まれました。シンガポールに行き、本をお渡した後、高橋源岩手県産専務と一緒にグットウッドパーク近くのホテルで中華料理を御馳走になりました。まさか、その時の二等書記官が岩手県知事になれるとは思いませんでした。

国内展でも、今でこそ業者さんは簡単に沖縄や九州に行ったり来たりしていますが、36年前は東京で開催する場合は夜行列車が発し、雪を着けた列車が早朝上野駅に到着、グループを組みタクシーで文京区本郷にある追分旅館で休憩と仮眠をとりました。それから日本橋高島屋で10トン車5台のトラックで積んできた商品降ろしの作業を行い、荷降ろし作業が終わった後、商品の陳列作業を行ったものです。

エピソード2…鈴木宏延副会長は当時(株)酔仙の営業責任者で、昭和46年に二回目を開催した

もつていた時もありました。もともと岩手県といっても大船渡市しか知りませんでしたので、仕事に就いた始めの頃は、南部鉄器、秀衡塗、岩谷堂筆筒、食品ではわんこそば、南部煎餅、金婚漬、豆銀糖、からめ餅などがなんのことかわからず、大変苦労しました。

入所当初の事業は、県産品の品質向上、商品開発を進める研修指導事業や情報収集提供の実施、県産品の販路開拓と拡大を図るための各種見本市、物産と観光展（札幌展、東京展、名古屋展、大阪展）、海外展（香港展とハワイ展）を開催していました。また、県産品の普及を図るため、毎年県内の主要市町村を会場に躍進かわての産業まつりを開催してきており、平成19年の秋に36回目を八幡平市で開催したのが最後の開催となりました。

当時は海外展で担当者が外国に行くことなど大変貴重なことで、私は毎回見送りばかりしていました。ハワイ展のときなどは、一回の催しで別々の日の早朝、盛岡駅に4回も見送りに行ったこともありました。

エピソード1…シンガポールにおけるいわての物産と観光展は昭和60年から始まり平成13年

東京高島屋展の岩手県酒造組合のコーナーで、酔仙の雪つこを販売をしていました。その当時学生だった私も、酔仙のアルバイトで雪つこの販売の手伝いをしていました。まさか、それから盛岡にきてこの仕事の本職になるとは思いませんでした。

この仕事に就いて早いもので36年間過ぎました。いろいろな出来事が多すぎて書き切れませんが、各種の物産展や見本市の運営、その道の専門家をお招きして開催した各種セミナーを通して感じましたのは、商売を行うことに関して近道は無いということ、商品が良く、価格が良く、他の商品と比較して自慢出来る特徴があれば、絶対に売れるということです。商品の良さを、地道にコツコツとPRしながら販路を開拓して行けば必ず花が開きます。商品さえ良ければ、必ずリピートがあるはず。売れないのは品質、価格、デザイン、売り方の中に必ずどこかに欠点があるからだと思っています。商品の外装等でデザインが重要であると言われます。それも一つの要因ですが、商品あつてのデザインなので、中身が良くないといくらデザインが良くても売れないと思います。またよく、大都会に商

写真で振り返る産貿のあゆみ

- 物産展
- 産業まつり
- 見本市
- 海外展



第1回東京高島屋展／昭和46年3月2日〜7日 お店のポスター。本格的な物産と観光展はすべてここからスタートした

品を販売するとき、地域によって味を変えた方が良いでしょう。かとの質問を受けますが、私は変えなくとも良いと思います。盛岡で、岩手で売れるものはどこでも売れますし、岩手県で人気のない商品は他でも人気が出ません。福岡、大阪、名古屋、東京、仙台、札幌でも売れ筋商品はほぼ同じです。行政も含め我々協会は売るための機会ばかりですが、最終的には生産者・企業の努力次第であると思います。少なくともこの努力は3年ないし5年間は続けて欲しいと思います。もう少し我慢してPRしていけば花が開くのと、何十回も思いました。

これからの物産展はかたちを変えた見本市としてとらえれば良いのではないのでしょうか。県から選抜されたお墨付きの商品が信頼のある百貨店を会場として販売されれば、消費者はこの商品は間違いないと思います。見本市、物産展、デパート等のいろいろなフェア等業者さんいろいろな忙しいと思いますが、可能な限り出店されれば良いと思います。お客さまも千差万別でいろいろな意見が出されますので、その中から良

いと思うものを参考に、商品に反映させるべきだと思います。今は物産展的な催しだけでなく、ネットショッピング他いろいろな販売形式がありますが、年に1度か2度デパートを会場にした対面販売も非常に大事だと思います。お客様に直接応対し、元気な姿を見せることも大事な営業のつだと思っています。

先日、高知県の知事選挙があり、尾崎知事が2期目の当選をされましたが、その時の記者会見で「地産外消」のことを提案されていました。地元でとれたものを外でもっと消費してほしいの思いますが、本県では40年も前から実施できていることです。地産地消から来た言葉で、その取り組みはもちろん大切あり、本県の場合「地産」は得意とするところです。しかし、人口の大きさから言って地元で消費される量はたかが知れていますし、これからも大きなものは望めません。やはり、外に打って出て、販売を拡大することが何よりも重要なことだと思います。それだけに物産展は、全国にブランドを知らしめる絶好の機

会だと思います。日本国内だけでも販路の拡大の余地はまだあります。九州で二つ、四国で二つ、山陽で二つ、大阪で二つ、名古屋で二つ、関東圏で二つ、東北は仙台市で、北海道は札幌市で、かなり規模の大きい物産と観光展を開催すれば、わざわざ大きな経費をかけて外国まで行かなくとも良いと思うのですが。外国で商売をするのであれば、米、りんご、鮭、さんなど品目を絞り、業界からの要望を聞いて実施しなければ、何回やつても良い結果は得られないと思います。外国では漬物や味噌、醤油、乾麺、羊羹の類の販売は絶対難しいと、30年やった経験から思います。それなら国内で、大きな規模で物産展を開催できるよう県もこれまで以上に予算獲得に力を入れて欲しいと思います。

津波のあったこの年に、合併により協会の名前が無くなるのは大変残念ですが、いわて産業振興センターの一部門として姿を変えて、物産振興の仕事は継続されます。今後ともしばらくはお付き合いたいただきますようお願い申し上げます。



第17回大阪高島屋展／平成元年2月
ボンネットバス(県北バス)も特別出演



第16回大阪高島屋展 平泉中尊寺展／昭和63年2月
中尊寺金色堂のミニチュアを展示



第4回香港展／昭和51年11月
香港大丸の会場風景



第3回躍進いわての産業まつり(北上市)のポスター
昭和48年10月



第20回東京高島屋展／平成2年3月
東京展の入口付近



第5回シンガポール展／平成元年11月
前日夜、漬物の仕込みをして販売。道奥社長(当時)大奮闘



第11回大阪高島屋展／昭和58年1月
開催前のセレモニー



第20回東京高島屋展／平成2年3月
威勢の良いせんべいの実演



第19回名古屋丸栄展／平成4年1月
県漁連コーナー前の風景



第17回東京高島屋展／昭和62年2月
南部炉端の店主も特別出演



第1回シンガポール展／昭和60年11月
中村知事(当時)夫妻も会場をめぐり説明を受ける



第30回札幌五番館展／平成3年10月
岩手の清酒コーナー



東北地場産品フェア'87／昭和62年10月
シンボルの手。アピオにて

社団法人 岩手県産業貿易 振興協会のあゆみ

- 物産展のあゆみ
- 産業まつりのあゆみ
- 見本市等のあゆみ
- 海外展のあゆみ



第24回東京高島屋展／平成6年3月
さけの中骨缶詰大ブーム



第22回産業まつり(大船渡市)／平成5年10月
体育館での早食い競争



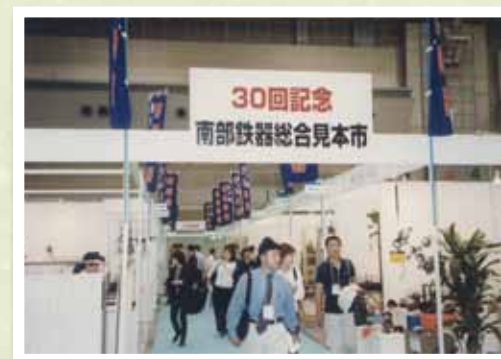
第1回岩手県産品取引商談会を花巻市産業まつりに合わせて開催／平成6年9月



第10回シンガポール展／平成6年11月
10回目を記念して特設ステージでわんこそば大会を開催



第25回大阪高島屋展／平成9年2月
こめ之介・こめ次郎のパフォーマンス



第36回記念の南部鉄器総合見本市をインターナショナル・ハウスウェアショウ2000東京で開催／平成12年6月
東京ビッグサイト



県産品愛用月間キャラバン／平成11年
キャラバンスタート前のセレモニー

物産展のあゆみ

昭和26年11月28日	
昭和46年3月2日～7日	東京都高島屋
昭和47年6月1日	
昭和47年10月17日～22日	大阪市高島屋
昭和47年11月3日～8日	札幌市五番館
昭和49年3月23日～28日	名古屋市丸栄
昭和49年8月19日	
昭和49年10月10日～15日	東京都高島屋食品売場
昭和55年4月1日	
昭和55年2月28日～3月4日	東京都高島屋
昭和56年9月9日～15日	札幌市五番館
昭和56年10月15日～10月20日	大宮柏高島屋
昭和57年1月21日～26日	大阪市高島屋
昭和58年2月10日～15日	名古屋市丸栄
平成2年3月1日～6日	東京都高島屋
平成3年10月2日～7日	札幌市五番館
平成4年2月20日～25日	大阪市高島屋
平成5年2月11日～2月16日	名古屋市丸栄
平成6年4月29日～5月5日	滝沢村アピオ
平成6年6月14日～20日	盛岡市カワトク
平成10年	
平成10年2月4日～10日	札幌そごう
平成11年10月16日～17日	滝沢村アピオ
平成12年3月9日～14日	東京都高島屋
平成12年11月2日～5日	滝沢村アピオ
平成14年1月23日～28日	大阪市高島屋
平成14年11月1日～3日	滝沢村アピオ
平成15年2月6日～11日	名古屋市丸栄
平成20年6月12日～17日	盛岡市カワトク
平成21年	
平成22年3月10日～22日	東京都高島屋
平成22年5月19日～24日	大阪市高島屋
平成23年10月20日～25日	名古屋市丸栄
平成23年12月1日	



（社）岩手県産業振興協会 発足（事務局 岩手県産業会館内）	
第1回 岩手県の物産と観光展（東京高島屋展）	
岩手県物産展等実行委員会 発足（事務局 岩手県商工労働部商政課内）	
第1回 岩手県の物産と観光展（大阪高島屋展）	
第11回 岩手県の物産と観光展（札幌展）	
第1回 岩手県の物産と観光展（名古屋丸栄展）	
（社）岩手県産業振興協会が岩手県貿易振興連絡協議会と合併し、（社）岩手県産業貿易振興協会となる	
第1回 いわたの農水産まつり	
（社）岩手県産業貿易振興協会と岩手県物産展等実行委員会が合併（事務局 岩手県産業会館内）	
第10回 岩手県の物産と観光展（東京高島屋展）	
第20回記念 岩手県の物産と観光展（札幌五番館展）	
岩手県の物産と観光展（大宮高島屋展）	
第10回記念 岩手県の物産と観光展（大阪高島屋展）	
第10回 岩手県の物産と観光展（名古屋丸栄展）	
いわて輸入博'94 地球市場	
さわやかふれあい 第1回いわて物産フェア	
盛岡市民文化センター（マリオス）に事務局を移転	
第1回 詩情ゆたかな岩手路 岩手県の物産と観光展（札幌そごう展）	
岩手ブランド博覧会（いわてめぐみフェアとして開催）	
第30回記念岩手県の物産と観光特別展Ⅱ大いわて展（日本橋高島屋展）	
岩手の匠展	
第30回記念岩手県の物産と観光展Ⅱ大いわて展（大阪高島屋展）	
岩手特産品フェア	
第30回記念岩手県の物産と観光特別展（名古屋丸栄展）	
いわての魅力 再発見 第1回 いわて特産品フェア	
岩手県先端科学技術研究センター内に事務局を移転	
第40回記念岩手県の物産と観光特別展Ⅱ大いわて展（東京高島屋展）	
第38回 岩手県の物産と観光特別展Ⅱ大いわて展（大阪高島屋展）	
ありがとう愛知！がんばるぞ岩手！ 岩手県の物産と観光特別展（名古屋丸栄展）	
（財）いわて産業振興センターと合併	



第9回大阪高島屋展／昭和56年1月
(有)チダエー“エイサク飴”



第9回大阪高島屋展／昭和56年1月
岩手の郷土料理講習会



待望の第1回高島屋展
昭和46年3月2日10時オープン



第1回高島屋展／昭和46年3月



第10回大阪高島屋展／昭和57年1月



第10回大阪高島屋展／昭和57年1月
中村知事(当時)高村光太郎展



第1回東京高島屋展／昭和46年3月6日(岩手日報)



第7回大阪高島屋展／昭和54年2月
千田知事(当時)あいさつ



第1回大阪高島屋展／昭和47年10月



第16回東京高島屋展／昭和61年2月



第16回東京高島屋展／昭和61年2月
宮古市黒森神楽



第20回東京高島屋展／平成2年3月
造り菓子 竹芳



第16回大阪高島屋展／昭和63年2月
佐々長醸造



ねりんピック'91 ふるさとフェア／平成3年9月



第20回大阪高島屋展／平成4年2月



第23回札幌五番館展／昭和59年

第23回札幌五番館展／昭和59年



第23回札幌五番館展／昭和59年9月



第23回札幌五番館展／昭和59年9月



第25回札幌五番館展／昭和61年9月



第23回札幌五番館展／昭和59年9月



第25回大阪高島屋展／平成9年2月



第25回大阪高島屋展／平成9年2月



第25回大阪高島屋展／平成9年2月



第1回いわて地場産品フェア(盛岡市カワトク)のテープカット／平成11年6月



第4回いわて特産品フェア(盛岡市カワトク)平成23年6月



第21回名古屋丸栄展／平成6年1月



第3回いわて物産フェア(盛岡市カワトク)平成8年6月



第20回大阪高島屋展／平成4年2月
田舎の水車小屋展示コーナー



第1回いわて物産フェア(盛岡市カワトク)平成6年6月



第23回大阪高島屋展／平成7年2月



第23回大阪高島屋展／平成7年2月

第3回東京高島屋展

昭和48年2月



第8回大阪高島屋展

昭和55年2月



第5回名古屋丸栄展

昭和53年2月



第9回大阪高島屋展

昭和56年1月



第17回東京高島屋展

昭和62年2月



第10回大阪高島屋展

昭和57年1月





第23回大阪高島屋展

平成7年2月



第18回大阪高島屋展

平成2年2月

第25回記念東京高島屋展

平成7年3月



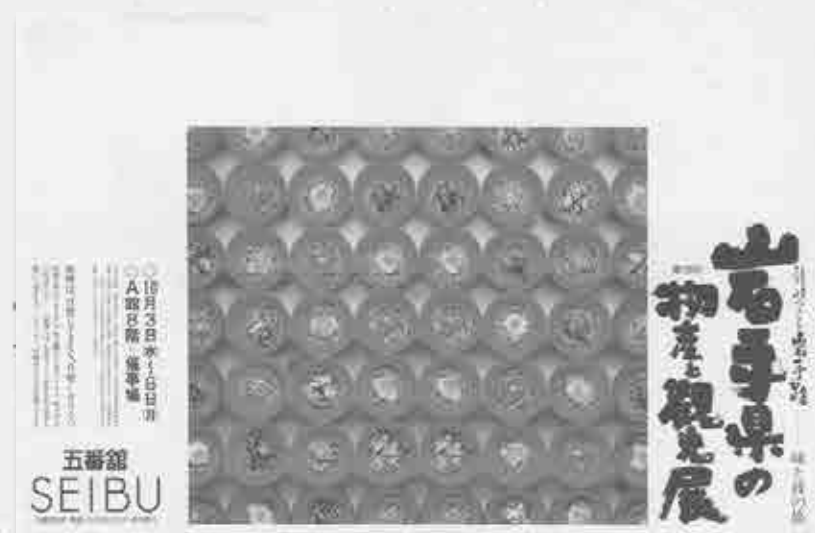
第20回記念東京高島屋展

平成2年3月



第25回記念大阪高島屋展

平成9年2月



第29回札幌五番館展

平成2年10月

躍進いわての産業まつりのあゆみ

昭和46年10月30日～11月3日 盛岡市

第1回 躍進いわての産業まつり

昭和53年10月21日～10月25日 盛岡市

第8回 躍進いわての産業まつり
(岩手県大産業祭として開催)

昭和55年10月3日～10月6日 大船渡市

第10回 躍進いわての産業まつり

昭和57年6月22日～6月27日 盛岡市、北上市、一関市

東北新幹線開通記念 北東北の観光と物産展

昭和62年10月31日～11月4日 滝沢村アピオ

第16回 躍進いわての産業まつり 同時開催 東北地場産品フェア'87

平成2年9月21日～9月25日 滝沢村アピオ

第19回 躍進いわての産業まつり (いわてトレンド'90として開催)
同時開催 岩手県工業振興展「いわて未来21展」

平成3年11月8日～11月11日 釜石市

第20回 躍進いわての産業まつり 同時開催 第12回釜石市産業まつり

平成8年10月31日～11月4日 滝沢村アピオ

第25回 躍進いわての産業まつり いわて・まるごとマーケット
第6回全国食文化交流プラザ「食パラダイス岩手'96」に参加

平成10年10月17日～10月18日 滝沢村アピオ

第27回 躍進いわての産業まつり 「いわてめぐみフェア」に参加

平成12年11月2日～11月5日 滝沢村アピオ

第29回 躍進いわての産業まつり 「いわてめぐみフェア」に参加
同時開催 第17回伝統的工芸品月間国民会議全国大会

平成13年10月12日～10月14日 宮古市

第30回 躍進いわての産業まつり 同時開催 宮古市産業まつり 2001

平成19年9月7日～9月9日 八幡平市

第36回 躍進いわての産業まつり 同時開催 第2回八幡平市産業まつり



明日にせまった第1回産業まつりのプレパレード
久保学園高校のポンポンチームが県庁前をパレード
昭和46年10月



第1回産業まつり／ホームスパンコーナー



第1回産業まつりパレード(盛岡市)／昭和46年10月



第10回産業まつり(大船渡市)／昭和55年10月



いわてめぐみフェア／平成12年11月



第1回産業まつり／南部鉄器コーナー



第1回の躍進いわての産業まつり／昭和46年10月
人目をひいた盛岡駅前の広告塔

見本市等のあゆみ

昭和46年8月7日～9日 盛岡市

昭和47年6月3日～5日 岩手県産業会館

昭和47年6月24日～26日 水沢鋳物総合センター

昭和48年2月7日～9日 東京卸売センター

昭和48年2月12日～14日 札幌卸センター

昭和49年6月6日～8日 水沢鋳物総合センター

昭和49年11月13日～14日 大阪市国際見本市会館

昭和51年7月12日～14日 東京都産業会館

昭和55年6月3日～4日 大阪マーチャンダイズ・マート

昭和56年9月9日～12日 神戸サンボーホール

平成2年6月14日～16日 千葉市・幕張メッセ

平成6年9月6日 花巻市

平成12年6月21日～23日 東京ビッグサイト

平成18年7月19日 ホテルメトロポリタン盛岡

平成22年6月2日～4日 東京ビッグサイト

平成23年6月1日～3日 東京ビッグサイト



第1回南部鉄器総合見本市／昭和46年8月



第1回ニットイン・いわて／昭和47年6月



第1回ニットイン・いわて／昭和47年6月

第1回 南部鉄器総合見本市
第1回 ニットインいわて展示発表会

第2回 南部鉄器総合見本市

第1回 いわての物産総合見本市（第1回県産品総合見本市「東京」）

いわての物産総合見本市（第1回県産品総合見本市「札幌」）

第4回 南部鉄器総合見本市―併設新作発表展―

いわての物産総合見本市（第1回県産品総合見本市「大阪」）

第5回 いわての物産総合見本市

第10回 南部鉄器総合見本市

第10回 いわての物産総合見本市（第22回全日本中小企業総合見本市）

第20回 南部鉄器総合見本市「インターナショナルハウスウエアショー'90東京」

第1回岩手県産品取引商談会

第30回記念南部鉄器総合見本市「インターナショナルハウスウエアショー・2000東京」

第2回 いわて食のマッチングフェア

第40回 南部鉄器総合見本市「第20回インテリアライフスタイル東京」

第41回 南部鉄器総合見本市「第21回インテリアライフスタイル東京」



第4回南部鉄器総合見本市（水沢市）
昭和49年6月



第17回南部鉄器総合見本市（東京都晴海）
昭和62年6月



第1回ニットイン・いわて／昭和47年6月



第4回南部鉄器総合見本市（水沢市）
昭和49年6月



第7回南部鉄器総合見本市（広島市）
昭和52年6月



第6回いわてマッチングフェア
平成22年7月

海外展等のあゆみ

昭和48年1月19日～25日

ダイエーハワイ店

第1回 ハワイにおけるいわての物産と観光展

昭和49年1月17日～19日

香港島シテイホール

第1回 香港におけるいわての観光と物産展示会

昭和57年11月4日～16日

香港大丸

第10回 香港におけるいわての物産と観光展（香港展）

昭和60年11月2日～10日

シンガポール大丸

第1回 シンガポールにおけるいわての物産と観光展

平成11年11月15日～21日

ペル

第23回太平洋国際見本市

平成11年11月12日～17日

シンガポール大丸

第15回記念シンガポールにおける
いわての物産と観光展（食バラダイス岩手'99として開催）

平成12年8月30日～9月5日

大丸オーストラリア
メルボルン店

岩手フェア・イン・オーストラリア

平成12年10月25日～11月7日

アメリカロサンゼルス
ポートランド

岩手の食品フェア・イン・アメリカ

平成14年10月3日～13日

シンガポール高島屋

シンガポールにおけるいわての物産と観光展（岩手フェア2002として開催）

平成16年8月25日

中国大連市

大連商談会

平成16年11月23日

韓国ソウル市

ソウル事務所開所一周年記念 北東北三県・北海道観光物産商談会 IN ソウル

平成17年4月1日

岩手県大連経済事務所開設

平成17年10月17日

中国大連市

第1回 大連商談会



第5回シンガポール展（シンガポール大丸）
平成元年11月



第7回シンガポール展（シンガポール大丸）
平成3年11月



大連商談会／平成22年8月



岩手県大連経済事務所開所式／平成17年4月1日



日本酒商談会
平成22年12月



いわてフェア イン オーストラリア
（大丸オーストラリア）／平成12年8月



海外経済視察団
（中国広州・深圳）
平成6年5月

平成17年10月18日
中国大連市
平成17年11月2日～5日
韓国ソウル市
平成18年10月13日～16日
中国大連市
平成22年5月1日～6月30日
中国上海市
平成22年12月5日
中国北京市

いわて食品フェア in 大連
いわてビジネスフェア IN ソウル（2005ソウル国際食品展示会への参加）
大連国際農産物交易会への参加
上海万博出展
岩手県・日本酒試飲商談会 in 北京



第3回香港展（香港大丸）／昭和51年10月



第2回シンガポール展ポスター

社団法人岩手県産業貿易振興協会
役員及び運営委員会名簿

會長	達増拓也	岩手県知事
副会長	元持勝利	岩手県商工会議所連合会会長
副会長	鈴木宏延	岩手県中小企業団体中央会顧問
理事	藤原誠市	藤原養蜂場会長
理事	齋藤淳夫	岩手県商工労働観光部長
理事	谷藤裕明	岩手県市長会会長
理事	柳村典秀	岩手県町村会理事
理事	千葉庄悦	岩手県商工会連合会会長
理事	高橋真裕	㈱岩手銀行代表取締役頭取
理事	永野勝美	日本貿易振興機構盛岡貿易情報センター会長
理事	佐藤義正	㈲岩手県観光協合理事長
理事	和嶋憲男	岩手県産㈱代表取締役社長
理事	岩清水晃	岩手県南部鉄器協同組合連合会会長
理事	菊池完之	岩手県ホームズパン協同組合理事長
理事	青柳一郎	岩手県漆器協同組合理事長
理事	久慈浩	岩手県酒造組合会長
理事	糸井彰一	岩手罐詰㈱代表取締役会長
理事	谷村久興	岩手県機械金属工業協同組合連合会会長
理事	高橋信教	岩手県乾麺工業協同組合理事長

理事	海鋒	白金運輸(株)代表取締役
理事	小野昭男	小野食品(株)代表取締役
理事	長葭常紀	(財)いわて産業振興センター専務理事
理事	藤原誠市	盛岡市特産品振興協議会会長
理事	今井洋一	(社)花巻観光協会会長
理事	阿部大司	北上市物産開発推進協議会会長
理事	荻田耕造	(社)奥州市観光物産協会副会長
理事	青柳一郎	一関地方物産振興協会会長
理事	金野靖彦	陸前高田市観光物産協会会長
理事	澤田政男	釜石観光物産協会会長
監事	齊藤俊明	大船渡市観光物産協会会長
監事	三品健悦	岩谷堂箆笥生産協同組合理事長
監事	及川敬	水沢鑄物工業協同組合理事長
運営委員	千葉正	(社)岩手県木炭協会会長
運営委員	齊藤俊明	岩手県菓子工業組合理事長
運営委員	岩清水晃	南部鉄器協同組合理事長
運営委員	及川敬	水沢鑄物工業協同組合理事長
運営委員	谷藤裕明	盛岡市長
運営委員	小沢昌紀	奥州市長

(平成23年11月30日現在)



社団法人岩手県産業貿易振興協会事務局

左から、	主 任 書 記	海 上	博
	主 任 書 記	五 日 市	由 美
	事 務 局 長	黒 澤	芳 明
	職 員	山 下	
	事 務 局 次 長	伊 藤	恵 治
			俊



岩手県大連経済事務所

左から、	職	員	蔣	偉 (しょうい)
	職	員	初	妮 (しょうんに)
	所	長	禹	瑾 (ゆうじん)
	職	員	李	菲 (りぎょうひ)
			昕	
			曉	

社団法人 岩手県産業貿易振興協会のあゆみ

平成 23 年 12 月発行

編集・発行／社団法人 岩手県産業貿易振興協会
〒020-0852 岩手県盛岡市飯岡新田 3-35-2
(岩手県先端科学技術研究センター 2 階)
TEL019-613-4011 FAX019-613-4012

印刷／川嶋印刷株式会社

